

令和7年度

# 「運営に関する計画」中間評価

大阪市立豊新小学校

令和7年11月

## 大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を91%を維持する。 <b>R6 91.3% R7 92%(校内調査7月)</b></li> <li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <b>R6 0.98</b></li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <b>R6 20%</b></li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめアンケートを定期的実施し、当該児童から聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していくとともに、日常的にいじめはどんな理由があってもいけないことだと指導を継続していく。</p> <p>指標 学期に1度以上、いじめアンケートを実施。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り対応する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有しながら支援を継続していく。</p> <p>指標 月に1回、生活指導部会及び児童理解研修を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>ICT機器の活用等による、本人、保護者と学校がつながる回数を増やす。</p> <p>指標 週に1回以上クロームブックや電話、放課後登校等を行い、本人、保護者とのつながる機会を年間を通して設ける。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① いじめアンケートを計画通りに実施し、丁寧な聞き取りを行うとともに、教職員間での共通理解を図ることができている。職員会議等でも気になる児童の情報共有と共通理解を行っている。</p> <p>② 生活指導部会や児童理解研修会を通して、学校全体で課題のある児童を把握し、指導や支援につなげることができている。</p> <p>③ 連絡がとりにくい家庭もあるが、電話連絡や放課後登校、定期的な教育相談を実施し、継続的なつながりを持つことができている。ICT機器を活用しオンラインで授業に参加することができている児童もいる。今後も家庭へ協力を働き掛け、関係諸機関等と連携し、支援を継続していく必要がある。</p>	

次年度への改善点

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上維持する。 <b>R6 97% R7 96%(校内調査7月)</b></li> <li>令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度より2%増加させる。 <b>R6 51% R7 56%(校内調査7月)</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>社会や集団生活でのルールについて全教職員で日常的に指導する。</p> <p>指標 「豊新学びのきまり」に基づき指導に当たる。毎週児童朝会を実施し、月目標や週目標を伝え、指導・支援をする。安全教育の充実を図るために、研修や実践を学期に1回以上実施する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>体験活動等で得た達成感や充実感をキャリアパスポート等を活用し振り返り、自己有用感の育成を図る。</p> <p>指標 学期に2回、キャリアパスポート等で目標の設定と振り返りを実施する。</p>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「豊新学びのきまり」にもとづき、学校内だけでなく登下校時や放課後の安全・安心を守るための指導を行っている。「豊新学びのきまり」を前後期に分けて、教職員や児童との見直しや保護者が再確認できるようにしている。また、児童朝会を毎週行い、月目標と週目標を具体的な話を例にしながら、指導を行っている。安全教育の充実を図るために、1学期には、警察の方を招き、刺股の使用方法について学んだ。6月実施の防犯避難訓練では、犯人役を立てた実践に近い形での避難訓練を行った。</p> <p>② 今年度は、豊新スポーツ大会時にも、キャリアパスポートで振り返りを行い、自身を見つめなおす機会が多かった。さらに、遠足や社会見学などの行事後にも振り返りを行い、児童が自分の頑張りが成長に気づくことで自己有用感の向上につながるよう工夫した。また、委員会活動や地域での活動等の、活動報告や発表で達成感や充実感を得られていると考える。</p>	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 <b>R6 42.1% R7 50%(校内調査7月)</b></li><li>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 <b>R6 国語3年100.3 4年100.2 5年99.8 6年98.7</b> <b>算数3年98.6 4年99.8 5年98.2 6年97.8</b></li><li>・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 <b>R6 80.3% R7 88%(校内調査7月)</b></li><li>・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 <b>R6 88% R7 93%(校内調査7月)</b></li></ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れ、多くの場面で考えを深め合ったり、伝え合ったりできるように工夫し、学習したことを振り返る活動を取り入れる。</p> <p>指標 対話の目標をもとに1日1回、学習の中で話し合う活動を実施する。また、学習の中で振り返る活動を取り入れる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援などを行う。</p> <p>指標 単元ごとに習熟を図るため調査を実施し、個々の進捗状況を把握する。学習ドリルなどを、やり直しを含め丁寧に実施し、週に1度必ず点検する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>I C T機器を活用しながら、学習の見通しをもって観察・実験を行い、児童自身でまとめる活動を取り入れる。</p> <p>指標 単元ごとに、I C T機器を使用し、観察や実験結果を記録したものから学習のまとめを実施する。</p>	B

取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】  
外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。

B

指標 外国語活動・英語教育の教員研修会を年3回実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 授業においては、児童が互いに考えを伝え合い、学びを深めることを重視し、1日1回以上の話し合い活動を実施している。国語では、話し合い活動を通して、相手の意見を受け止めながら自分の考えを広げる話し方や、要点をつかんで聞く力を身に付けている。算数では、問題解決の過程や考え方を図や式を用いて説明し合うなど、主体的・対話的な学びの場を広げている。その成果として、児童の発表に対する抵抗感が軽減し、学習への意欲が高まってきた。一方で、振り返り活動が十分に実施できていない日もあるため、今後は時間配分を工夫して確実に進めるようにしていく。
- ② 児童一人ひとりの学習状況を把握するため、単元ごとに習熟調査（レディネステスト等）を行っている。学習ドリルやプリント等を毎日点検し、やり直しを丁寧に指導している。さらに、学力向上weekを設け、繰り返し復習問題に取り組むことで、基礎学力の向上を図ることができている。これらの取り組みから、基礎的・基本的な学力の確実な定着が進んでいる。
- ③ ICT機器を積極的に活用し、学習の見通しをもって観察・実験に取り組む活動を進めている。例えば、夏野菜の成長を写真で記録し、数か月の変化をスライドにまとめる活動や、季節の虫や花の観察を共有する取り組みを実施している。単元によっては、観察や実験のまとめをICTで行うことが難しいときもある。
- ④ 外国語活動やモジュール学習の充実をめざし、教員研修を実施し、教材活用を学んだことで実際の授業に生かされている。モジュール学習では、DREAMに加え、DVDや絵本など多様な教材を活用し、児童が楽しみながら学習に取り組めるよう工夫している。計画通り、研修会を実施することができている。

次年度への改善点

## 大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を63%以上にする。 <u>R6 68.5%</u> <u>R7 69%(校内調査7月)</u>	/

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 運動の日常化のために、児童が意欲的に体を動かそうとする活動や運動強調週間を実施する。 指標 学校生活アンケート「外で体を動かすことが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を50%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健学習や保健週間の設定において、健康で安全な生活態度や習慣を向上させる取り組みを行う。 指標 年1回以上の性に関する教育を実施する。9月と1月に「手洗い強調週間」を行う。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 栄養指導や給食指導、各教科において、食べ物への興味関心をもち、食べることの楽しさやよりよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行う。 指標 食に関する指導(2回)や豊新の森・学習園などを活用した体験的な活動(1回)を年に合計3回以上行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 令和7年度の校内調査における「外で体を動かすことが好きですか」の項目において、69%の児童が最も肯定的な回答をした。前年度は「休み時間に」という言葉が入っていたが、休み時間という言葉をとったのも大きな要因であると考えられる。暑さ指数の問題もあり、外で遊ぶことができないことをどう工夫していくかが課題である。『運動強調週間』については、11月(なわとび)と2月(かけ足)に実施予定である。 ② 『手洗い強調週間』については、保健委員会を中心に1回実施している。1月にも、実施予定にしている。性教育については、計画的に実施している。 ③ 栄養教諭を招き、栄養指導を各学年2時間ずつ実施する。(現時点では、各学年1時間実施) 今後も、計画通り進めていく。給食委員会にて給食週間の取り組みを行っている。1学期には、給食委員が作成した食に関するクイズを各クラスで取り組み、食への関心を高め、食べることの楽しさやバランスの良い食生活を大切にする気持ちを養った。	

豊新の森や学習園を活用した活動も各学年行っている。しかし、近年の気温上昇の影響により、豊新の森の果樹の実りが著しく減少している。そのため、これまで実施してきた関連行事の実施が困難となる可能性がある。現在、専門業者に木々の状態を確認してもらい、今後の管理方法や対応策について検討を進めているところである。

次年度への改善点

(様式2)

## 大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>学校の年度目標</b> ・令和7年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 <u>R6 93% R7 94%(校内調査7月)</u>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 指標 教員が一人1回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を8回以上行う。	<b>A</b>
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 主体的、対話的な活動を取り入れ、児童が自分の考えを持ち、交流を通じて考えを広げる場を設定する。 指標 話型をもとに言語活動の充実を図り、1日1回以上、話し合う活動を取り入れる。	<b>B</b>
取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 年4回学力向上 week を実施し、児童の学力向上につなげる。 指標 学期に1回の学力向上 week (1学期に「計算領域」、2学期に「計算領域」、3学期に「漢字」「計算領域」) を実施する。	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 研究授業や全体研修を通じて、教員が互いの授業を参観し合いながら、教材研究や指導方法の改善に努めている。例えば、竹ものさしのmmの目盛りをパソコン上で拡大して読み取りやすくしたり、ロイロノートを活用して学級全体の考えを相互に参照したりするなど、デジタル機器を効果的に活用した授業の工夫が進められている。その成果として、児童アンケートでは94%の児童が「授業の内容は理解できる」と回答しており、教員の指導力向上や授業改善の取り組みが児童の学びに確かな成果を上げていることがうかがえる。今後も計画に基づき、研究授業や学習指導に関する全体研修を継続的に実施していく。	
② 1日1回以上の話し合い活動が定着してきている。授業の中では話型やハンドサインを活用しながら、自然に自分の考えを相手に伝えようとする児童が増えてきている。今後も教員間で実践を共有しながら継続的に取り組み、児童の思考力や表現力の向上を図っていく。	
③ 計画通りに実施できている。学年ごとの目標達成や基礎学力の定着に成果が見られる。今後も、目標達成できなかった児童には繰り返しの指導を行い、学力の定着をさらに図っていく。	

次年度への改善点

## 大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標を設定する】</b></p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p style="text-align: right;"><b>R6 96% R7 4~8月活用率 100%</b></p> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</b></p> <p>・ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p style="text-align: right;"><b>R6 夏季4日 冬季3日 R7 夏季4日 冬季3日</b></p>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号5 DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</p> <p>ICT機器(心の天気、デジタルドリルなど)を活用した教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 授業の中で学習者用端末を1日1度以上使用する。ICT機器を活用した教員の指導力向上のための研修会を実施する。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容②【基本的な方向番号6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <hr/> <p>指標 ゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外においては1日以上設定する。</p>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 各学級において毎日の「心の天気」の実施や授業中に「デジタルドリル」や「ロイロノート」等を活用することで、学習者用端末を使用する機会が設けられている。さらに児童の学習効果がより得られるよう、ICT機器をより効果的に活用した授業づくりを行うことを目的とした教員間の研修が1学期に1回、夏季休業中に1回実施している。今後もICT機器を活用した児童の学びの充実を目指し、活用法の工夫・共有を行っていく。</p> <p>学校全体で心の天気の入力を確実にするため、グループエリアを活用し、担任で声掛けをすることを習慣化している。</p> <p>② 教職員の働き方改革を進めるための取り組みとして、当初の計画通りほぼ週に1度ゆとりの日が設定され実施されている。また夏季休業中には学校閉庁日として4日間設定された。今後も自己研鑽の時間の確保や心のゆとりをもって授業・教材づくりができるよう、教職員一人ひとりが仕事の取り組み方を工夫していく必要もある。</p>	

次年度への改善点

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>学校の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。 <b>R6 83%</b> <b>R7 84% (校内調査7月)</b></li> <li>令和7年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 <b>R6 97%</b> <b>R7 93% (校内調査7月)</b></li> <li>令和7年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を89%以上にする。 <b>R6 94%</b> <b>R7 95% (校内調査7月)</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</p> <p>学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。</p> <p>指標 週に1回、図書館を利用する。また、年に2度読書週間を実施する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p> <p>指標 芸術鑑賞行事、3～6年生で社会見学を確実に1回実施する。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容③【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>教育方針や教育活動の様子を、「学年だより」等を通してわかりやすく伝える。</p> <p>指標 月に1回、学年だより等を地域・保護者に配付する。週1回以上、学年の活動をホームページに掲載する。</p>	<b>A</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 令和7年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合は84%である。目標の数値を上回っているため、引き続き現在の数値を維持、更新できるように児童がより読書を楽しめる機会を計画していく。夏休みに学級文庫の補充・点検を行い、児童が読書に親しめるように環境を整えている。図書委員会では「読書週間」を企画し、児童が読書したいと思える雰囲気をつくっている。2学期には今年度一度目の読書週間を図書委員会中心に実施したことでさらに児童が本に触れる機会が増え、意欲的に本を読むようになってきている。</p> <p>② 令和7年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合は93%である。令和6年よりは低くなったものの、目標値以上は維持できている。10月に芸術鑑賞、3年生以上は各学年2度以</p>	

上の社会見学の手定があり、指標を上回っている。

- ③ 当初の手画通り月に1度、学校だより・学年通信を配付している。また、週に一回以上学年の様子を学校HPに更新し、掲載している。今後も「開かれた学校」として、保護者や地域と連携、協働していく。

次年度への改善点